※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１５

令和５年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	家庭基礎「気づく力　築く未来」（実教出版）						
副教材等	家庭基礎「気づく力　築く未来」学習ノート（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・座学、実習など真面目に取り組むことが、何よりも大切である。
・主体的に取り組む姿勢を常にもち、分からない内容は授業時間内で解決できるよう努めること。
・自分や家庭、地域の生活を主体的に想像し、実践的な態度を養おう。
・生活の中から課題を設定し解決する力を養おう。

２　学習の到達目標

「知識・技能」
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭・衣食住・消費や環境など生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけている。
「思考・判断・表現」
生涯を見通して、自分や家庭、地域及び社会における生活の中から課題を設定し、課題を解決する力を身に付ける。
「主体的に取り組む態度」
さまざまな人と協働しより良い社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組むとともに、地域社会に参画しようとする。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭・衣食住・消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけられるようにする。	生涯を見通して、自分や家庭、地域及び社会における生活の中から課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身につけられるようにする。	さまざまな人と協働しより良い社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組むとともに、地域社会に参画するとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	これからの人生について考えてみよう	・ライフステージにおける発達段階について学び、現在の自分の課題を考える。 ・人生をデザインするうえで必要な準備を考え、シミュレーションする。 ・具体的に生涯にわたる生活設計を考える。	a:自分自身について考えるワークシートやレポートなどを通して、自分や人の一生についてのかんがえをまとめることができる。 b:人生の各ライフステージの特徴と課題についてしり、少子高齢社会、男女共同参画社会などの社会状況を考えながら、発表などを通じて表現することができる。 c:現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲をもって取り組もうとしている。	ワークシート レポート	レポート 発表 グループワーク 観察	レポート 観察
	自分らしい生き方と家族	・大人と自分を比較 ・青年期の特徴について学ぶ ・働く意義 ・職業労働と家事労働の違い ・時間の使い方 ・家族の条件とは何か ・家族を支えるしくみ ・家族に関する法律	a:青年期の課題について理解できる。人生設計の課題を理解できる。生活時間と労働時との関係について理解できる。 b:図表などから家族の形やあり方や役割について読み取ることができる。 c:結婚、家族、家庭の形、家族・家庭の役割について興味、関心を持とうとしている。	レポート グループワーク	レポート 観察	レポート 観察
	子どもとかかわる	・こどもの発達 ・子どもの生活 ・子どもをはぐくむ ・子どものための社会福祉	a:子どもの心身の発達や子どもの生活について知識を身に付けている。 b:子どもとふれあう体験学習に主体的に取り組む。 c: 国の支援策や課題などについてまとめることができる。	レポート	レポート 観察	レポート 観察

※令和４年度以降入学生用

	高齢者とかかわる	・高齢社会の現状を知る ・高齢者の生活場面を体験 ・要介護の高齢者との接し方を考える ・介護をめぐる課題の解決にはどのようなことが必要か考える	a:高齢化社会の現状や課題について情報収集し課題解決にむけて考えをまとめる。 b:高齢者へのインタビューなどで高齢者を知り課題を導き出しレポートなどで表現する。 c:高齢社会の現状、を積極的に知り高齢者とかかわろうとしている。	レポート 発表	レポート 観察	レポート グループワーク
2学期	社会とかかわる	・福祉の意味について考える ・暮らしの支えあいについて考える。 ・	a:社会保障制度のしくみについて理解できる。 b:保障制度のしくみを、現在の生活課題と関連させる。 c:社会の一員としての自覚を持ちボランティア活動などに参加しようとしている。	レポート 体験	レポート	レポート
	食生活をつくる	・日本の食文化の成り立ちを理解する。 ・自身の食生活の現状把握と課題を理解する。 ・健康で豊かな食生活を育むための気づきや工夫を理解する。 ・栄養素について理解する。 ・旬の食材理解・食品表示の理解 ・添加物についての理解 ・表示の理解 ・食品の見分け方 ・食中毒の予防・食生活の計画と管理 ・衛生と安全に配慮した調理 ・年齢や性別ごとに異なる食事摂取量の理解 ・日本の食料自給率の現状を理解	a:日本の食文化の理解と共に食事の意義や役割を理解し、栄養や食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ実際の食生活に生かす。 b：自身の食生活や現在の食生活の課題を発見し、課題解決のために思考し解決に向けて判断ができる。 c:調理実習においては、積極的に参加し、取り組もうとしている。	レポート	レポート 発表	レポート グループワーク

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

２学期	衣生活をつくる	・人と衣服のかかわり ・衣服素材の種類と特徴 ・衣服の選択から管理まで ・持続可能な衣生活 ・衣服の構造・デザイン	a:衣服の素材の種類や特徴についてかんしんをもち、衣生活の改善・向上に積極的に取り組もうとする。 b:衣服整理についての基礎的な知識を身に着け実生活で生かす。 c:基礎縫いの確認のための実習や、衣服調査など、積極的に取り組もうとする。	レポート 実験 （吸水・速乾性など）	レポート グループワーク 観察	実習 レポート
	住生活をつくる	・人間と住まい ・住まいの文化 ・住まいを計画する ・健康に配慮した快適な室内環境 ・安全な住まい ・持続可能な住まいづくり	a:住まいの役割・機能について、地域の特性などをふまえて調査・研究ができる。 b:住まいの管理方法について、適切な掃除や頻度を考え、判断することができる。 c:住まいの機能、住環境について関心をもち、より良い住生活の創造にむけて意欲的に取り組もうとする。	レポート 発表	レポート 観察	レポート グループワーク
３学期	消費行動を考える	・消費行動と意思決定 ・消費生活の現状と課題 ・消費者の権利と責任 ・ライフスタイルと環境	a:消費行動について様々な情報を収穫しながら、自分の消費行動について検証することができる。 b:多様化する販売方法や支払い方法について問題点や解決策を考え、判断することができる。 c:消費者としての自覚を持つ。	レポート （購入時に重視することなど）	レポート 発表	レポート
	経済的に自立する	・暮らしと経済 ・将来のライフプランニング	a:家庭経済、国民経済などのしくみについて理解でき、短期、長期的経済計画の重要性を認識できる。 b:将来のライフイベントとその費用を考えることができる。 c:自分の経済的自立を考えながら、家庭経済、国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとし、短期、長期の経済計画について意欲的に取り組もうとしている。	レポート 発表	レポート	

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度